

決算特別委員会

委員長 井元 宏三

副委員長 大村 謙吾

委員 池田 稔巳 神田 全記 竹山 俊郎

松尾 実 山内 貴史 山内 政夫



委員長報告全文はこちらをご覧ください。

# 決算特別委員会レポート

# 海岸漂着物地域対策推進事業や木質バイオマスエネルギー導入事業などについて議論

## 健康づくり推進員設置事業

【事業内容】各地区において、健康診査の受診勧奨に協力していただくことなどを目的に、市内全域に「健康づくり推進員」を配置するための経費など。

Q 市内全域で175人の健康づくり推進員を配置することとされている中、令和4年度においては165人となっているとのことだが、特定健診受診率は、国から受ける交付金にも影響があるとのことである。特定健診をできる限り受けてもらうことが重要であり努力してもらいたい。

A 健康寿命延伸のためにも、健康づくり推進員は全地区配置に努め、特定健診受診率の向上を図りたい。

## 北松北部環境組合管理運営事業

【事業内容】田平町の北松北部クリーンセンターについて、松浦市とともに施設の適正な管理・運営を行うため必要な負担金など。

Q ここ数年と比較し、公債費（公債の償還や利子の支払いに必要な経費）に係る負担金が増えているがなぜか。

A 北松北部クリーンセンターの施設稼働期間が延長されたことに伴い、平成29年度から3年かけて施設の改修工事をしており、令和3年度から施設改修経費として借り入れた公債の元金償還が発生しているため。

## 海岸漂着物地域対策推進事業

Q 例年、季節風が吹き、漂着ごみが増えることが予測される11月から2月末ごろを回収時期としているとのことだが、7月の海の日前後に海岸清掃を行う地区も多い。7月の時点でもすでに大量の漂着ごみが見られることから、回収の時期について見直すことはできないのか。

A 回収時期については市において決定している。今後、県からの補助金交付の状況も見極めながら検討していきたい。



## 平戸式もつかる農業 実現支援事業

Q 市外から移住してきた新規就農者が、安定した経営ができ、生活が成り立っているかが重要。行政はその後のフォローも含め、もっと新規就農者と関わりをもってもらいたい。

A 農協や県などの関係機関で育成指導会を結成している。新規就農者の育成については、今後その中で検証・評価しながら指導にあたりたい。



## 有害鳥獣被害防止対策事業

Q イノシシを捕獲した頭数によって猟友会に対し報奨金（ジビエ利用1万3千円、埋設1万1千円）を出しているが、埋設する際の手間等を考えると報奨金額を見直す必要があるのではないか。

A 国の補助金に、市がそれぞれ4千円を上乗せして報奨金を支払っているところだが、捕獲従事者の高齢化に伴い、猟友会から労力軽減の要望もあるため、金額の見直しについては、今後内部で検討していきたい。

## 畜産クラスター構築事業

Q 本事業で令和4年度に整備した牛舎は、事業計画に際して5年後の市場セリ価格を設定したと思うが、いくらで設定したのか。また、現在は子牛の販売額が下落している。今は市としても市場情勢などを想定しながら、適切な助言をしてほしい。

A 令和4年度事業分については、令和元年から3年の子牛の平均販売価格をもとに、県の基準に照らし、令和9年度の販売目標額を設定した。直近の子牛の平均販売価格は、事業計画時より大幅に下落しており、ここまでの下落は予測できなかった。また今後の予測も難しい状況だが、市としては、現在の状況や見通しを踏まえ、計画の立案には適切な助言をしていきたい。

## 木質バイオマスエネルギー導入事業

Q 重油ボイラーから木質チップボイラーに切り替えた場合の燃料コスト削減効果について実証実験を行ったとのことだが、その結果はどのようになったか。

A 令和3年11月から令和4年10月

の1年間、平戸市森林組合の菌床しいたけ生産施設において検証を行った結果、ボイラーの燃料を木質チップに代替したことにより、前年同期と比較して重油使用量は11万7600ℓの削減。削減額は約1298万円。

一方、木質チップの燃料代は563万2千円であり、諸経費等を含めても約466万円の削減効果があった。

Q 実証実験を行った平戸市森林組合だけでは木質チップの確保が難しいのではないかと。

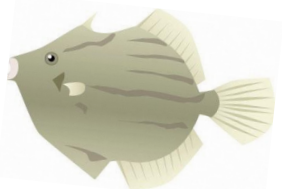
A 今後は農家の農閑期や、土木業に携わる人の仕事が入り込むときなどに、木を切って搬入できるように形が広がればと考えている。

## カワハギ陸上養殖 実証試験事業

【事業内容】カワハギの陸上養殖が可能なかの実証試験を行う。

Q 現在の実証試験の状況はどのようになっていくか。また、今後事業として成り立つ見込みはあるのか。

A 現在、カワハギの人工種苗500尾を5トンの水槽に入れ、さまざまな



検証を行っている。令和5年中に試験出荷を行い、市場の取引単価などの推移を見ながら、事業として成り立つか判断したい。

## 平戸ブランド戦略的プロモーション推進事業

Q 「平戸アゴ」の認知度向上を図るためのブランド化はどのように考えているか。

A 「平戸アゴ」の名称を地域団体商標登録することや、名称を打ち出した個別の展開を行うことでブランド化が図られると考えている。しかし、当該登録については自治体ではできないこともあり具体的な取り組みには至っていない。まずは「平戸アゴ」のブランド化に向けて計画を組み、今後関係部署・団体、生産者と連携して取り組みを進めていきたい。

## 6次産業化推進事業

Q この事業によって開発された産品の検証はできているのか。

A 平成27年度から補助金により産品の開発を支援しており、これまでに152商品が開発されたが、令和5年3月末時点で、そのうち81商品が市場に残り、販売中である。